

# 徳川家康の関東入国 と野田市域

(とくがわいえやすのかんとう  
にゅうごくとのだしいき)



松平康元墓（宗英寺）

天正 18 年（1590）7 月、5 代にわたって関東を支配した小田原北条氏が、豊臣秀吉によって滅ぼされました。替わって関東の大部分を領有するようになったのは、徳川家康でした。これによって野田市域も、家康の領有するところとなりました。家康は、255 万石におよぶ領国に、家臣を配置して支配を行います。野田市域には、関宿に松平氏を、山崎に岡部氏が配されました。

関宿に入った松平氏は、徳川家康の異父弟の康元です。康元の母は、家康の生母の水野氏（お大の方）で、天文 10 年（1541）松平氏と刈谷（愛知県刈谷市）の水野氏との同盟の証として、家康の父松平広忠に嫁ぎ、翌年家康を生みました。ところが、翌天文 12 年になると、水野氏は松平氏と敵対関係になり、広忠はお大の方を離縁しました。同盟の証であったので、その関係が崩れたからには、離縁せざるを得ませんでした。実家に戻ったお大の方は、阿久比（愛知県阿久比町）の久松長家（一般には俊勝とされています）の下へ再嫁します。そこで、康元・勝俊・定勝の三人の子を生みました。

永禄 3 年（1560）桶狭間の戦いによって、家康が今川氏の下から独立し、織田氏と同盟関係を結ぶようになると、水野氏・久松氏との関係も友好になり、久松氏は家康の配下に属するようになりました。そこで家康は、三人の異父弟に松平苗字を与え、一門とします。他に兄弟がいない家康にとっては、貴重な血縁者でした。康元が、関宿に配されたのも、こうした家康との関係があったからです。

関宿は、天正 2 年（1574）まで、古河公方家（こがくほうけ）の重臣で、反北条氏の中核であった築田氏（やなだし）の居城でした。北条氏康が、「関宿を取ることは一国を取ることに等しい」とまで言っているほどの重要拠点でした。江戸を拠点とした家康が、江戸に近く、しかも重要拠点である関宿に、一門を配するのは、当然でしょう。

山崎に入った岡部氏は、駿河国益津郡岡部（するがのくにましづぐんおかべ）付近（静岡県岡部町周辺）の武士で、今川氏に従っていました。岡部正綱は、今川氏の滅亡後、一時武田氏に属し、その後徳川家康に属します。正綱の子が、康綱・長盛で、野田へ配されます。

岡部氏の居城は、当初山崎にあり、のち堤台へ移ります。岡部氏が与えられた地は、関宿に近く、江戸と関宿を結ぶ交通路を押さえる地です。そうした要地に岡部氏が配されたのは、長盛が松平康元の婿という姻戚関係にあったことよると考えられます。

松平（久松）氏・岡部氏は、家康との関係において、必然性をもって野田市域に配されたのでした。

《詳しくは》

\* 野田市史編さん委員会編『野田市史 資料編 中世2』 2002 野田市

岡部長盛画像（泉光寺所蔵）



巳（文禄2年）2月20日 岡部康綱黒印状（興風図書館所蔵 野田市指定文化財）

